

「々」を何と呼ぶ？

踊ります!?



「々」は、「山々」「弱々しい」など、すぐ前の漢字一字をくり返して書く代わりに用いる符号です。「やまやま」「よわよわ」と、その漢字と同じ読み方をします。「々」そのものには音や訓はありません。

せん。同の字点などと呼ばれ、くり返し符号(重ね字、踊り字)の仲間です。

同じ漢字が続くからといって、たとえば、「民主」と「主義」といった、別々の言葉が合わさった結果、たまたま同じ漢字が続くときは、「民主々義」とはしないで、「民主主義」と書きます。

平仮名をくり返す場合は「ゝ」、片仮名は「ゝ」を用います。夏目漱石の小説は古い本では『こゝろ』となっています。後ろの仮名が濁るときは、「ゞ」「ゞ」になります。

踊り字は、もともと、手書きするときに、同じ文字を書くわずらわしさを減らし、文書を早く仕上げるための工夫でした。でも、パソコンで打つなら、手間は同じですね。踊り字の効用は少なくなりましたかもしれない。



「おのおの」を漢字で書けば

「々」は、その形からノマと呼ぶ人もいます。ただし、片仮名のノとマを組み合わせたものではありません。「同」の異体字(標準とは違う形の字)である「仝」が変化してきたとの説から同の字点の名があります。また、中国でも用いられていた(二の字点)に由来するともされます。

ほかに、「さらく」「くれぐ」のように、仮名を二字分くり返すくの字点もありますが、『国語の書き表わし方』(文部省編 一九五〇年十二月)で、『々』以外は、できるだけ使わないようにするのが望ましい」とされ、次第に使われなくなりまし

た。ところで、「各」はこれ一文字で「おのおの」と読めます。ただ、読みにくいので、常用漢字表の備考欄では「各々」とも書くこと注記されています。日本国憲法の原文には「両議院は、各々」という言い方が六回出てきます。この符号は訓のくり返しを表す二の字点を小さくして右に寄せた形です。二の字点は現代表記にはなじまないの

ので、条文や簿記などで使う(ノノ点)は、今も使われています。欧文で使われていたのを取り入れたもので、もともとは横書き用の符号です。